

学校教育目標	「友だちがすき」豊かに成長し合える友だちとのかかわりをめざします
	「台小がすき」自分らしさを発揮し、問題解決に向かって進んでかかわる力を育てます
学校概要	「このまちがすき」まちに愛着をもち、地域の一員としてかかわる力を育てます
	○問題解決に粘り強く取り組む子どもを育てます(知) ○よりよい人間関係を築く子どもを育てます(徳)
	○心身ともに健やかな子どもを育てます(体) ○地域に愛着をもって進んでかかわる子どもを育てます(公)
	○自他の社会や歴史、文化を尊重し、よりよい生活をつくる子どもを育てます(開)
	創立 47 周年 学校長 原 南実子 副校長 鈴木勝之 2 学期制 一般学級: 15 個別支援学級: 4

児童生徒数: 452 人	主な関係校: 小山台中学校、本郷中学校、西本郷中学校、本郷特別支援学校
--------------	-------------------------------------

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション能力> <協働して課題解決する力>	小山台中学校 小菅ヶ谷小学校 小山台小学校	豊かな関わり合いの中で、自らの課題に粘り強く取り組む子ども ・自らの課題に取り組み、進んで活用・探究する力を育てる。 ・豊かな関わり合いを大切に、共に生きる力を育てる。 ・教育環境を整えることにより、学力向上を図る。

中期取組目標	○子どもがまちと豊かに関わり学ぶことを通して、自分らしさを発揮し、他者とともに生きる力を育む学校にします。 ・どの子どもも安心して自分らしさを発揮し、他者と共に望ましい人間関係を築く中で、自尊感情を育めるようにします。 ・豊かな体験を通して、主体的・対話的で深い学びを実現し、学ぶ楽しさを実感できるようにします。 ・自分の心身を大切に思い、健やかに成長しようとする生活習慣を形成できるようにします。 ・まちに進んで関わる取組を推進する中で、まちを愛する心や生きる力を育みます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①たてわり班活動や本郷特別支援学校、幼・保との交流等、状況を見ながらできることを丁寧に行い、一つ一つのかかわりを大切にすることで、学年や学校の枠を超えて、お互いの個性を認め合い、支え合う学習を展開していく。②校内外の人権に関するプログラムを実施し、自己肯定感、他者理解を育んでいく。
担当 人権教育担当	
生きてはたらく知	①各教科・領域で、自分たちで課題を設定し解決していくことを意識した、学び合いのある授業展開を図り、学びの基礎・基本の定着と活用力育成を目指す。②重点研の研究テーマを「本気の思いを対話により深める学び」と設定し、生活科、『横浜の時間』を中心に、「思いをもち対話する力」を育成する。
担当 教務部・教育評価推進	
公共心と社会参画	①生活科、『横浜の時間』を中心として、地域の方とのかかわり方を考え、すすんで交流しようとする態度を養う。②まちの一員として自分で考えて行動し、地域や社会の一員として、自分たちにできることは何かを考え、社会のために役立とうとする態度を養う。
担当 重点推進委員会	
健やかな体	①全校で大縄集会やドッチビーの実施、また、ロング昼休みの時間を確保することを通して、運動の習慣を身に付ける。②新体力テストのデータをもとに、運動委員会による体力向上プロジェクトを発足する。③子ども主体で学校保健委員会を実施し、自ら健康を意識して生活する態度を養う。
担当 体育部・保健	
安全管理	①安全部を中心に職員全体で災害緊急避難時や不審者対応時に、子どもたちが安全で正しい避難方法、避難経路かを判断できる力や行動力を育てる。そのために様々な避難訓練を計画し、実行する。②地域防災拠点会議で、学校として必要な情報を集め、地域とともに組織的な連携がとれるよう計画する。
担当 防災安全部	
児童・生徒指導	①月一回以上の情報共有を継続して行い、全職員での児童理解に努め、指導や支援につなげる。②年2回のYPアセスメントや生活アンケート、日々の観察や面談により児童の実態を把握し、指導や支援に生かす。③児童支援専任を中心に必要に応じて関係機関と連携し、指導や支援の充実を図る。
担当 児童指導部	
地域連携・学校運営協議会	①複数の職員で、地域コーディネーターと密に連携をとり、学習活動や安全対策を行う。②学校便りやホームページ、学校運営協議会で、子どもの様子などを発信し、共有する。良い点や改善点について分析し、学校運営へ反映させる。
担当 教務部	
	c8
担当	
いじめへの対応	①研修等でのいじめに対する全職員の意識を高め、未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組む。②職員間や関係機関との情報共有を適切かつ積極的に行い、児童支援をより充実させていく。③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」等を活用しながら、自尊感情・自己肯定感を高める授業づくりや集団づくりに取り組む。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学年やブロックで児童の様子を共有し児童理解、教材研究を深めていく。特に、重点研究である生活科、横浜の時間を軸として人材育成を図る。②人材育成チームミーティングを組織する。メンターチーム、ポトムアップチーム、主幹チームとし、互いにつながりを持ちながら育成が図れるようにする。
担当 教務部・人材育成チーム	